

# 令和元年度 第2回 京丹波町子ども・子育て審議会 議事概要

日時：令和元年8月27日（火） 午後1時30分～4時00分

場所：京丹波町中央公民館3階 大会議場

出席委員：18名

欠席委員：2名

## 1 開会あいさつ（会長）

会長：今日は、第2回京丹波町子ども・子育て審議会を開催したところ、多くの委員様にお集まりいただき感謝申し上げます。

本日の審議会では、第2期計画の骨子に係る細部について、より活発なご意見を賜り、より充実した支援内容を皆様の知恵をお借りして、より豊かなものにしていきたいと考えている。少子高齢化はどのまちも同じ課題である。今日は、参加型の会議をとということで前回承認もいただいたので、本町の課題や今後あるべき姿をただ町に要望してだけでなく、私たち自身も、子育てについて自分たちで何ができるかについて共に考えていきたい。他人事ではない子育て問題を討議いただき、日ごろの感想や私たち町民が何ができるかという視点も忘れずに、「産んでよかった、育ててよかった」と思えるまちづくりについて、活発なご意見を賜ることをお願いし、あいさつとする。

## 2 協議事項

(1) 『“子ども・大人・地域”それぞれの目線で必要な環境や未来像について』（グループワーク）

### 【事務局によるグループワークについて説明】

会長：事務局からグループワークでの注意点、班分けなどについて説明があった。何かご質問などないか。

会長：ないようですので、早速ではあるが、各会場に移動をいただき、それぞれ各班で司会進行役を中心に進めていただくようお願いする。また、先ほど説明もあったように、3時30分にはこの会場に再度、お集まりいただき、全体での情報共有を図りたいので、よろしく願います。

### 【各班でグループワーク】

会長：それでは、グループワーク、お疲れさまでした。各班で出た貴重なご意見等、できるだけ全体の場で情報共有を図りたい。発表役をお世話になる方、A班から順に発表をお願いします。

委員：(A班) 近所の子どもへの注意ができにくくなった時代である。不登校などについても、近所で声をかけにくくなり、昔のようなおせっかいは喜ばれない。町内にさくらんぼという子育て支援サークルがあるが、たまたまそのことを知って悩みを相談できて助けられたという話も出た。町内の子育てサロン、サークル活動等親子で集える場所や支援、ネットワーク化の重要性についても話が出たが、そういう情報の発信が大切であり、ケーブルテレビやホームページ、現代では、ラインやメルマガなどを使って発信をしていくことが大切だなあという話も出た。京丹波町で生まれた子どもは町の子どもですよということで自信を持って言える施策も必要だし、税金についても次世代に回すという視点も必要であり、子どもに光のあたる施策や、また、意見、要望を聞く場所を設けるなどできることからやってほしいという意見が出た。

委員：(B班) 子どもだけで楽しめる“秘密基地”“たまり場”のような場所があり、思い出を残し

ながら子どもたち同士、異年齢の交流が図れば、コミュニケーション能力の向上も図れるなあという話が出ていた。核家族化の中、親が孤立する現状がある中で、相談ができる関係が持てれば、子育ての経験のある方とのコミュニケーションがとれアドバイスをもらえたり、それぞれにプラスになる関係が持てる場所や環境があればよいなあという意見や、共働きの家庭が増えてきているので、病児保育が充実し、安心して子どもが預けることができれば、子育てしやすい環境になるのではないかという意見が出ていた。また、PTA活動での役員や、保護者の交流など親が楽しんでいる姿を子どもに見せること、親の意識が変わると子どもの言動が変わること等、学校や地域でのお父さんやお母さんの力を発揮する機会づくりも大切だなあと。他には、地域での声かけ、地域で子どもを見守るという視点で、あいさつ運動や登下校時の見守りを行っているが、バラバラでは負担が増えるのみなので、いろいろな見守り活動が連携された見守りとなるのが大切であり、見直しもいるのかなという話などが出た。

委員：(C班) 自然豊かで思い切り遊べる場所や施設があるようだが、子育てしながら子どもを見ているとなかなか子育てしにくいという現状がある。昔は子ども同士で近所の子ども達で遊びに行ったり、近くの公園で遊べたりしたが、今は、どこに行くにも親の送迎が必要だったりして、なかなか思うように遊ばせられない。子どもの数が減少していることで、学年を超えた集う場、雨でも遊べる場、パルクールのような新しい遊び場を作ってやりたいとか、小さい子どもが集まる場所なのに、和式トイレしかない公共の施設だったり、施設の改良についても意見が出た。また、昔は地域で、近所のお店で大人も子どもも自然に集まる機会もあったが、核家族化や親の孤立化が進む中、お互いが交流できる場所や環境があれば、大人同士がつながったり、子ども同士がつながったりできる。そういう場のひとつとして、“子ども食堂”のような大人も子どもも集まれる場所の創出が必要だなあという話が出た。

会長：各班のグループワークの様子を聞いていただいたところで、委員の皆様から、ご質問やまたご意見、これだけは言っておきたいということなどないか。

委員：C班の意見を聞いて、A班でも子どもの数が減少していることや、友達関係の固定化や複式学級の学校も増えていることから、学年を超えて集う場づくりができたという話が出ていた。小学校の合同運動会ができたなあということや、これからなら認定こども園も魅力あるものとして人を呼び込み、アピールができるものではないかという話も出た。また、PTA活動などの大人のつながりが子どものつながりになるという話なども出ていたので報告させていただく。

会長：共通するものとして、子ども・子育ての取組みについて興味関心を持っていただいております、それぞれの団体から出ていただいている皆様から貴重な意見をいただけたことに感謝申し上げます。次世代の子どもを育てていく観点ということから、現状を知っていただき、大人のつながりが子どものつながりを作っていくということがよくわかった。お金だけでなく知恵を出し合い、子どもに光を当てる行政施策がこれからの持続可能なまちづくりに不可欠となる。京丹波町で生まれた子どもに対して、京丹波町の子どもですということが自信と誇りを持って言えるまちづくりをしていきたい。本日の貴重なご意見を参考に、次期計画に肉付けをしていきたい。

## (2) その他

【事務局による幼児教育無償化について説明】

### 3 次回会議予定

事務局：第3回の会議は、10月11日（金）午前9時30分から、ここ京丹波町中央公民館3階大会議室にて開催予定である。次回会議においては、前半部分で再度グループワークを実施し、第2期計画の基本理念や基本目標等について検討していきたいと考えている。会議の後半部分では、アドバイザーの原先生からアドバイスをいただく時間にしたいと考えている。ついでには、本日のグループワークでの各班の意見等をまとめたものを、開催通知に同封させていただくので、目を通していただき、できるだけ多くの参加をお願いする。

### 4 閉会あいさつ

副会長：グループワークでは、日ごろ皆様が考えておられること、悩んでおられることなど共有することができ、委員の皆様、それぞれのお立場からたくさんのご意見もいただく良い機会となった。熱心に意見交流いただき、本当にありがとうございました。大変お疲れさまでした。ここでひとつ質問をしたい。ここにいられている男性の方や身近な方で、育児休暇を取得した方はいませんか。企業ではなかなか育児休暇の取得が進んでいない現状であるが、ある企業では、育児休暇を取得した方に「パパエプロン」をプレゼントする取組みを行っている新聞記事を見たことがある。子育てに父の力、祖父の力はとても大切であるので、男性の方々に子育てにたくさん参加・協力をしていただきたい。

また、先日、2歳の子育てをしている娘が里帰りをした際に、「京丹波町に帰ってくると、ほっとする」と言う。都会では、子どもが泣いているのは当たり前ではなく、「うるさい」「虐待ではないか」など子どもの泣き声がすごくストレスに感じるのだと。この町では、子どもが泣いていても、周りの方は「泣いているのは当たり前、育児にがんばっているね。」という温かい眼差しで見られる。今回のグループワークの意見でもあったが、人と人とのつながりを大切に、子育てを温かく応援できる私たちでいたい。次回会議もお世話になるがよろしく願います。

閉会